

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

昨年と大問の構成は変わらず、<パート1>読解総合問題、<パート2>読解総合問題、<パート3>自由英作文となっている。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

- ・昨年度は3題共に医療系の文章が出題されていたが、本年度は<パート3>だけになり、内容も専門性が薄れている。英問英答式の問題は本年度も引き続き出題されていて、一昨年度は自分の意見を述べる設問が<パート3>に加えて<パート2>でも出題されたが、昨年度から<パート3>だけになった。<パート3>の自由英作文は、昨年度までは詳細な指示に基づいて答案を作成することが求められていたが、本年度は大まかな指示が1つだけになった。また、求められている語数は一昨年度に、それまでの150 words 以上から100 words 程度に減少したが、本年度は125 words 程度にさらに増加した。また読解問題の語数が年々増加傾向にあり、英問英答式の設問などもあるので、90分という解答時間は決して十分とは言えず、時間的な制約は例年以上に厳しかったのではないかと思われる。対策として読解問題の分量が多いので、文章の大きな流れをとらえると同時に、内容一致問題では細部に気を配る必要がある。年度によっては指示があいまいな設問があるので、文脈から何が問われているのか、何が問題とされているのかを自分で的確に判断すべき場合があることにも留意しておきたい。
- ・<パート1>は一昨年より専門性が高く、かつ時事的で医療的なテーマに戻っていたが、本年度は、野球から環境問題を考える一般的なテーマになった。これまで出典はTIMEやNewsweekだったが、本年度はウェブサイトが出典だった。<パート2>は昨年は医療系のテーマだったが、本年度はfast fashionが環境に及ぼす深刻な影響がテーマになった。出典は<パート1>と同様にウェブサイトだった。
- ・<パート3>は文章全体を読んだうえで、解答する形式に変わった。

その他トピックス

- ・例年通り英問英答式の設問が出題されているが、一昨年度は<パート3>だけでなく<パート2>の設問2の2でも意見を求めるものがあつたことにも留意しておきたい。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
<パート1>	読解総合	大リーグの本塁打数の増加に対する地球温暖化の影響 (1,107 words)	語数が1,107 wordsで、昨年の1,086 wordsから21 words微増となり、難易度に影響はない。 出典が一昨年度のThe New York Times、昨年度のTIMEから、本年度はウェブサイトになった。また、例年、難単語が散見され、語句注が付いているが、一昨年度の21、昨年度の30から本年度は12に減少した。このような出典の格式の変化や句注の減少により、内容は昨年度よりも読みやすくなったと言える。設問2の解答該当箇所ではステロイドやスイングの変化による本塁打数の増加が述べられているが、英文自体は平易で野球への関心が低い受験生にもハンディにはならないと思われる。設問2に関係するcontrol forは、controlの本来の意味にこだわらずに文意を優先して解釈すれば推測が可能で	やや難

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
			<p>ある。</p> <p>設問4は、(c)の選択肢では greenhouse gas に自然発生的なものも含まれるのかがあいまいで、一方 (d)は本文の per year に相当する語句がなかったため、判断に困った受験生が少なくなかったと思われる。</p> <p>例年どの程度まで説明すればいいのか迷う設問や指示があいまいな設問があったが、設問3は指示が明確で、該当箇所を見つけるのにも苦勞しないため、解答するのは容易だったであろう。設問4の内容一致問題は、選択肢の順番が本文に登場した順番通りではないこと、本文の該当箇所が明確なもの、一部の語句に変更を加えたり、別個の記述を合わせて1つにしたりする巧妙な選択肢があることに留意しておきたい。</p> <p>《出典》 Fox, A. (2023, April 7). "Climate Change Is Making Home Runs Easier to Hit". <i>Smithsonian Magazine</i>. https://www.smithsonianmag.com/science-nature/climate-change-is-making-home-runs-easier-to-hit-180981949 (大学発表)</p>	
<パート2>	読解総合	fast fashion が環境に及ぼす深刻な影響 (1,045 words)	<p>語数は昨年度と同じだった。</p> <p>本年度もウェブサイトが出典だった。例年通り英問英答式の設問が2題あったが、意見を求める問いが昨年度と同様になく、本文の内容に即して説明を求める設問だけになっている。しかし、一昨年度は意見を求める設問もあったので、英語で解答し、さらに意見を述べる演習も積んでおきたい。</p> <p>空所補充問題の選択肢は、品詞が異なるので、文構造から品詞を絞り込み解答することができる。この数年は選択肢に難易度の高い語は少なくなってきたので、語彙レベルが配慮された傾向が続いていると言える。選択肢を絞り切れない空所がいくつかあるが、読み進めたうえで絞り込むことができるので、立ち止まらずに、読み進める判断を的確にしたい。また、たとえば正解の wealthier に対して、直後に lower-income nations があるなど、対比や同義語句の流れのようなヒントがある場合は活用したい。動詞を選ぶ場合は、語法は当然ながら、それ以前に述語動詞か準動詞か、さらに述語動詞の場合は時制もヒントになるので活用したい。</p>	やや難

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
＜パート3＞	自由英作文	脳内ナノチップへの関心 (472 words)	<p>《出典》 Nemo, L. (2021, June 26). “How Fast Fashion Harms the Environment — and People’s Health”. <i>Discover Magazine</i>. https://www.discovermagazine.com/environment/how-fast-fashion-harms-the-environment-and-peoples-health (大学発表)</p> <p>要求されている語数が一昨年度に、それまでの 150 words 以上から 100 words 程度に減少したが、本年度は 125 words 程度に増加した。また、段落の構成や内容から書式まで、昨年度は 6 つの指示があったが、本年度は大まかな指示が 1 つあるだけであり、解答の自由度が上がった。医療系のテーマは継続しているが、専門性が下がった。しかし、文章全体を読んだうえで解答する形式になったため、苦勞した受験生は多かったであろう。主語と述語動詞の一致や時制等の文法的なミスが致命的になることを心得て解答を進めていきたい。</p> <p>《出典》 Ogasa, N. (2023, May 3). “Deblina Sarkar Is Building Microscopic machines to Enter Our Brains”. <i>Science News</i>. https://www.sciencenews.org/article/brain-machine-deblina-sarkar-scientists-to-watch (大学発表)</p>	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

(1) ＜パート1＞＜パート2＞の読解総合問題に関しては、時事的な英文や医療系の英文に接したり、英語で設問に答えたり意見を述べたりする訓練を日頃から継続的にやりたい。また、背景となる時事問題は最新のものもあり、医療系の文章が出題される場合、内容の専門性が高いので、背景知識が求められる。したがって、最新の時事問題や医療問題に対しても日頃から関心を持つようにしたい。実際、2022年11月18日の静岡新聞に、浜松医科大学による「新型コロナワクチン効果追跡調査」の記事が掲載され、翌年の＜パート1＞のテーマにもなった。とはいえ、文法や構文把握が土台となるので、高校の教科書レベルの学習もきちんと行っておきたい。文法や英作文も取り入れてバランスよく学習を進めるべきである。

(2) ＜パート3＞の自由英作文の難易度は高い。医療系から一般的なものまで、多様なテーマで演習しておきたい。しかし、書式が詳細に求められる場合は、それを踏まえたうえで解答するように注意したい。